熊本学園大学
KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY

2022年10月7日

報道関係　各位

熊本学園大学 広報室

熊本における多文化共生共創を探求する
－第11回東アジア共生映画祭を3年ぶりに対面開催－

熊本学園大学外国語学部東アジア学科 申明直教授(専門:韓国文学・文化)が代表を務める東アジア共生映画祭実行委員会主催の「第 11 回東アジア共生映画祭」を3年ぶりに対面で開催します。

今回のテーマは「ローカル・フェア親密圏へのいざない」。東アジアの国々から熊本をはじめとする九州や北海道などへの技能実習生(移住労働者)が急増していますが、最終的に技能実習生が選好する場所は東京などの大都会。しかし、農村地域では技能実習生をともに生きるパートナーとして、安定的に維持する必要があります。そのためには法律や政策の改善を図り、技能実習生とその地域での分かち合いや思いやり、共生と共創が作り出す「親密圏」の形成がなされなければなりません。技能実習生がその地域で「親密圏」を形成するために、「ローカル」でありながらも「フェア」で、多文化共生共創の必要性を訴えた映画が放映されます。今回、本学の大学院生・留学生が撮影・編集した「ローカル・フェア親密圏へのいざない」も上映されます。

よろしければ取材いただきますよう、ご案内申し上げます。

取材ご希望の方は必ず事前にご一報いただきますようお願いいたします

＜第11回東アジア共生映画祭 イベント概要＞

■日時　10月21日(金)18:00～(21時終了予定)
■会場　熊本学園大学14号館高橋守雄記念ホール
■参加費　無料
■プログラム〈 映像 〉
18:10～ 「フェア、気候正義への答え」(3分)
18:13～ 「ローカル・フェア親密圏へのいざない」(10分)2022年、シン・ミョンジクPD他
〈 映画 〉
18:25～ 「海辺の彼女たち」(88分)2020年、藤元明緒 監督
〈 シネマトーク 〉
19:50～ テーマ「熊本における多文化共生共創、その道探し」(60分)
●登壇者
藤元明緒氏(「海辺の彼女たち」監督)
レー・ティ・チャム氏(在熊本ベトナム人協会代表)

映画祭への参加は事前申請が必要です。右記QRコードからご申請ください。

本リリースについてのお問合せ
熊本学園大学　広報室　TEL：096-364-8722（直通）　Mail：koho-kgu@kumagaku.ac.jp

熊本学園大学　プレスリリース等メディア情報一覧
https://www.kumagaku.ac.jp/news/archives/category/media

2022年 熊本学園創立80周年

熊本学園大学
KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY

PLAN MEMO

【企画メモ】

ローカル・フェア親密圏へのいざない

東アジアの国境を越える移動が、熊本をはじめとする九州や北海道などでも農業技能実習生を中心に急増している。もちろん技能実習生（移住労働者）が選好するところは農村ではなく大都会である。それゆえ、農村地域で働き手を安定的で持続的に維持するためには、移住労働者を使い捨てではなく、着実に共に生きるパートナーとして認識する必要がある。

持続可能なパートナーとして共に生きていく方法として真っ先に挙げられるのは、法と政策の改善を通じた解決方法、すなわち「公共圏」での包摂過程である。しかし、公共の包摂過程だけでは限界がある。分かち合いと思いやり、共生と共創が作り出す「親密圏」が形成されない限り、農村の働き手探しは事実上その持続性を喪失する可能性が高い。

多文化共生「親密圏」を形成するためには、まずそれが「ローカル」でありながらも「フェア」でなければならない。具体的には、環境にやさしいだけでなく、農業技能実習生を含む移住労働者にもやさしい農産品･農産加工品を生産･消費する関係の形成、すなわちローカル･フェアトレード･システムを構築する必要がある（環境省が発表した「地域循環共生圏」の多文化共生バージョン）。多文化共生の条件を満たした農産品・農産加工品に「多文化共生ローカル･フェアトレード認証ラベル」を付与することも考えられる。今回の映画祭が多文化共生とフェアトレードが結びつけられた新しい熊本モデルを探していく議論と実践の場になってほしい。

東アジア共生映画祭 2022 実行委員会
申 明直

CINEMA EVENT

【シネマトーク】

THEME 熊本における多文化共生共創、その道探し
：移住民とローカル･フェア親密圏

「海辺の彼女たち」
藤元明緒 監督
Fujimoto Akio

1988 年大阪府生まれ。ビジュアルアーツ専門学校大阪で映像制作を学ぶ。

■長編初監督作『僕の帰る場所』(2018) が、第 30 回東京国際映画祭「アジアの未来」部門でグランプリ含む 2 冠など、33 の国際映画祭で上映、■長編二本目となる『海辺の彼女たち』(2020)が、▲サンセバスチャン国際映画祭の新人監督部門に選出 ▲第 21 回「ニッポン・コネクション」にてニッポン・ヴィジョンズ審査員賞(2021.7) ▲2021 年度「新藤兼人賞」金賞(2021.11) ▲第 13 回 TAMA 映画賞で最優秀新進監督賞(2021.11) ▲第 31 回日本映画批評家大賞で新人監督賞を受賞(2022.3) ▲「ぴあフィルムフェスティバル」にて第 3 回大島渚賞(2022.4)を受賞。

■『海辺の彼女たち』の女優 3 人は、▲ホアン・フォン(フォン役)：1995 年生、パリ国際映画祭 2021 にて俳優賞を受賞、ハノイ在住 ▲フィン・トゥエ・アン(アン役)：1995 年生、ホーチミン在住 ▲クィン・ニュー(ニュー役)：1994 年生、ホーチミン在住

在熊本ベトナム人協会
レー･ティ･チャム 代表
Le Thi Tram

1977 年ベトナムゲアン省生まれ。現在、熊本県外国人サポートセンターと熊本市国際交流会館ベトナム語相談員。1998 年、来熊。2001 年から、通訳業務など。2014 年から、県内にベトナムからの留学生や技能実習生等が多くなったため、ベトナム語による相談を始めた。言葉と子育てなど大変だったが、そのような経験があったからこそ、県内のベトナム人の相談が可能になった。夢は、近いうちにベトナムの旧正月に帰省すること。

FILM * 1ST

映画「海辺の彼女たち」(88 分)

“Along the Sea” 日本/ベトナム、2020 年、藤元明緒 監督
キャスト：ホアン・フォン、フィン・トゥエ・アン、クィン・ニュー

技能実習生として来日した若きベトナム人女性 3 人はある夜、劣悪な職場から力を合わせて脱走を図る。新たな職を斡旋するブローカーを頼りに、辿り着いた場所は雪深い港町。やがては不法滞在となる身に不安が募るも、故郷にいる家族のためにも懸命に働き始める。しかし、安定した稼ぎ口を手に入れた矢先にフォンが体調を壊し倒れてしまう。身分証が無いままに病院に行く。藤元監督が技能実習生から受け取ったSOSメールをきっかけにして描き始めた物語。

FILM * 2ND 3RD

映像 ドキュ WITH (10 分)

「ローカル･フェア親密圏への誘い」

在熊本ベトナム人協会・百草園/熊本、2022年
シン･ミョンジク PD他

撮影・編集：田中沙季、古閑華恋、ホアン･ティ･フオン、グエン･ホアン･ロン、盧恩明、辛教燦

▲non-GMO と百草園
◀実習生の休日 in 長洲

熊本で最も多い外国人はベトナム人である。2 番目に多い中国人より約 1.8 倍も多い。県内の技能実習生（特定技能含む）は、県内の在留外国人の 43%を占めている(2021.12)。在熊本ベトナム人協会の代表は、働くベトナム人に最も必要なのは、隣人の温かい一言だという。人手不足の熊本にいなくてはならない存在である彼らと共に働き創っていく温かくてフェアな世の中はどんなものだろうか。持続可能な熊本の農業を実践してきたある農家を訪ねてみた。

映像 報告(3 分)

「フェア、気候正義への答え」

撮影:熊本学園大学フェアトレード研究会、編集：NPO 法人東アジア共生文化センター

発展途上国は先進国に比べて温室効果ガス排出量が少ないが、気候変動による被害はさらに大きく受けている。このような問題を改善するため、5 月のフェアトレードデーを迎え行った、様々な「気候正義」キャンペーン映像。